

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

Skin Cancer (2001.04) 16巻1号:124~127.

陰茎亀頭部に発症したVerrucous carcinomaの1例

飛澤慎一, 高橋英俊, 山本明美, 橋本喜夫, 飯塚一

Verrucous carcinoma

陰茎亀頭部に発症した Verrucous carcinoma の1例

飛澤 慎一* 高橋 英俊* 山本 明美*
橋本 喜夫* 飯塚 一*

Verrucous carcinoma of the glans penis

Shinichi TOBISAWA *, Hidetoshi TAKAHASHI *, Akemi YAMAMOTO *, Yoshio HASHIMOTO *, Hajime IIZUKA *

* Department of Dermatology, Asahikawa Medical College

We report a case of verrucous carcinoma of the glans penis. A 71-year-old man visited our hospital because of erythematous slightly infiltrated plaque on the glans penis. Histopathology disclosed that he had erythroplasia of Queyrat and the lesion was resected with 5mm margin. Three years later, he noticed 8mm × 5mm-sized verrucous nodule on the excised area. Histopathology showed marked hyperkeratosis, irregular acanthosis and individual keratinization, but minimal cellular atypia. Immunohistochemical analysis for HPV was negative. He was treated by wide excision with skin graft, and no evidence for recurrence or metastasis has been detected so far. [*Skin Cancer (Japan)* 2001; 16: 124-127]

Key words: Verrucous carcinoma, Erythroplasia of Queyrat, Human paillomavirus(HPV)

症 例

症 例：71歳，男性
主 訴：陰茎亀頭の白色皮疹
初 診：1995年3月1日
既往歴：尋常性白斑（1965年頃発症），包茎（1992年に手術）
家族歴：特記すべきことなし。
現病歴：1995年1月頃，陰茎亀頭の淡紅色皮疹を自覚した。近医を受診し，精査加療目的で

当科を紹介され1995年3月1日，陰茎亀頭から包皮にかけての紅色局面（図1）を生検し，Erythroplasia of Queyratと診断された（図2）。病変部から5mm離して切除および advancement flap を施行された。

1998年9月，陰茎亀頭先端に白色の角化性皮疹を自覚し，生検の結果，Verrucous carcinoma（以下VC）と診断され，1998年9月16日，手術目的で当科に入院した。

現 症：陰茎亀頭に8mm × 20mm大の白色，紡錘形の疣状の結節を認める（図3）。

病理組織学的所見（拡大切除標本）：著明な角質増殖，不規則な有棘層の肥厚，個角化を認め

* 旭川医科大学皮膚科（主任：飯塚 一教授）



図1. 陰茎亀頭から包皮にかけての紅色局面

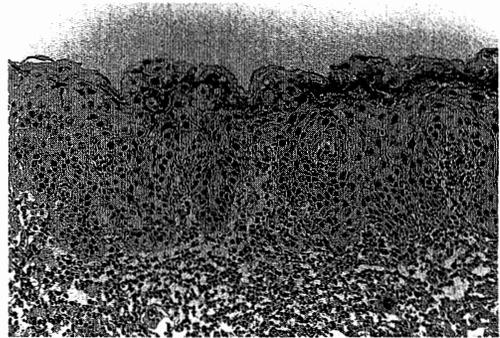
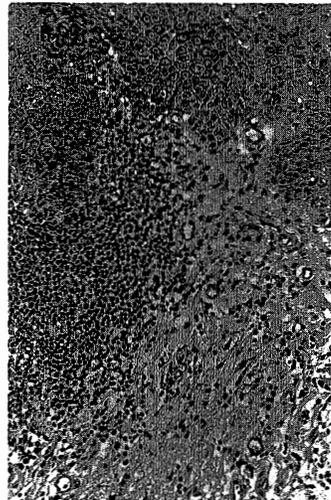


図2. 病理組織所見
表皮は肥厚し配列が不規則な基底細胞様細胞で占められる



図3. 陰茎亀頭の8mm×20mm大、疣状局面



a
b

図4a. 病理組織所見 (弱拡大)
著明な角質増殖, 不規則な有棘層の肥厚
b. 病理組織所見 (強拡大)
個角化がみられるが細胞分裂は目立たない.
腫瘍直下のリンパ球浸潤を認める

るが, 分裂像は目立たない (図4a)。腫瘍直下にリンパ球浸潤を認める (図4b)。HPV染色陰性。

検査所見: 末梢血, 尿所見に異常なし。TTT: 3.4MKU ↑, ZTT: 5.4KU, GOT: 59IU/l ↑, GPT: 68IU/l ↑, γ -GTP: 55IU/l ↑, LAP: 46IU/l, と軽度の肝機能障害を認めた。BUN: 21mg/dl, Cre: 1.0mg/dl, SCC抗原: 0.5ng/ml と正常。

全身CT: 転移の所見を認めなかった。

尿道造影：尿道への浸潤はみられない。

経過：VCと診断し，外尿道口側は5mm，他は1cm，深さ3~5mm離して拡大切除および分層植皮術を施行した。術後の病理では切除断端に腫瘍性病変を認めず，以後，外来にて経過観察しているが再発・転移はみられない。

考 察

1948年 Ackermanは口腔領域の臨床的に良性で組織学的に高分化型有棘細胞癌と考えられる症例を verrucous carcinoma of the oral cavity と報告した¹⁾。本腫瘍は外方性および内方性に増殖し，角化性，疣状，カリフラワー様の腫瘤を形成する。時に下床の骨浸潤がみられることがあるが転移をきたすことは稀である。病理組織学的に，腫瘍細胞は異型性の乏しい有棘細胞からなる。好発部位は口腔内，外陰部，足趾であり，それぞれ oral florid papillomatosis, giant condylomata acuminata, epithelioma cuniculatum とよばれる²⁾。このほか背部³⁾，下腿熱傷瘢痕部⁴⁾，仙骨部褥瘡⁵⁾，骨髄炎後の下腿⁶⁾，顔面⁷⁾，耳介⁸⁾，足趾⁹⁾などに生じた例が報告されている。

自験例は生来包茎で，陰茎亀頭に Erythroplasia of Queyrat の既往があり，切除3年後にVCが発生した。Erythroplasia of Queyrat に前立腺癌をともなった報告¹³⁾はあるが，VCを続発した症例は調べ得た限りではみられない。

VCの発症誘因として従来から長期の感染と不衛生な環境が重要と考えられてきた¹⁰⁾。近年，HPVの発癌への関与が重視されVCにおいてもHPV6型¹¹⁾，HPV16型¹²⁾などが分離され報告されている。自験例では免疫組織化学的にHPVの検索を行ったが，陰性であった。

VCに対する治療は外科的切除が第1選択であるが，細胞異型に乏しいにもかかわらず，しばしば局所再発がみられるため¹⁴⁾，広範囲切除が望ましいとされている。冷凍凝固法，5-FU，ベ

プレオマイシン，プレオマイシンによる化学療法，レチノイド内服¹⁵⁾なども症例によっては有効であるが再発例が認められる。自験例は全身精査で転移の所見なく拡大切除および分層植皮術を施行し現在までに再発・転移はみられない。

文 献

- 1) Ackerman, L.V.: Verrucous Carcinoma of oral cavity. *Surgery*, 23: 670-678, 1948.
- 2) Lever, W.F., Schaumburg-Lever, G.: *Histopathology of the Skin*, 7th Ed, Lippincott, 1990, pp558-559.
- 3) 岡野昌樹, 前田求, 岡田奈津子, 他: 背部に発生した verrucous carcinoma の1例. *皮膚*, 25: 67-71, 1983.
- 4) 麻生和雄, 佐藤紀嗣, 伊藤義彦: 下肢熱傷瘢痕部に生じた両側性の Verrucous Carcinoma. *臨皮*, 39: 973-977, 1985.
- 5) 笹岡龍次, 西浦清一, 木村秀一郎, 他: 仙骨褥瘡に生じた Verrucous Carcinoma の1例. *皮膚臨床*, 36: 283-285, 1994.
- 6) 清澤智晴, 中村仁子, 平賀教子, 他: 骨髄炎による慢性刺激から生じたと思われる Verrucous Carcinoma の1例. *皮膚臨床*, 39: 1275-1278, 1997.
- 7) 山城将臣, 大井鋼郎, 古賀道之, 他: 顔面に生じた verrucous carcinoma の1例. *臨皮*, 51: 1151-1153, 1997.
- 8) 犬塚潔, 菅又章, 牧野惟男: 耳介に発生した verrucous carcinoma の1例. *形成外科*, 38: 201-205, 1995.
- 9) 笹岡龍次, 石原政彦, 安岐敏行, 他: 骨破壊を伴った Verrucous Carcinoma の1例. *皮膚臨床*, 37: 552-553, 1995.
- 10) Klima, M., et al.: Verrucous carcinoma of the skin. *J. Cutan. Pathol.*, 7: 88-98, 1980.
- 11) Boshart, M., zur Hausen, H.: Human papillomaviruses in Buschke-Lowsenstein tumors; Physical state of the DNA and identification of a tandem duplication in the noncoding region of a human papillomavirus 6 subtype. *J. Virol.*, 58: 963-966, 1989.
- 12) Nishikawa, T., Kobayashi, H., Shindoh, M., et al.: A case of verrucous carcinoma associated with human papillomavirus type 16 DNA. *J. Dermatol.*, 20: 483-488, 1993.

- 13) 趙性哲, 平山公三, 中村裕一: 前立腺癌を伴った Erythroplasia of Queyrat の 1 例. 皮膚, 24:485-491, 1982.
- 14) Schwartz, R.A.: Verrucous carcinoma of the skin and mucosa. J. Am. Acad. Dermatol., 32:1-21, 1995.
- 15) 広川政巳, 坂井博之, 久保等, 他: Verrucous Carcinoma of the Penis—Etretinate 内服療法で経過観察中の 1 例—. 皮膚臨床, 31:513-517, 1989.